

# 写真・映画の資料化に伴う諸問題 マンローコレクションを対象に

Various Problems Associated with Preparing Photos  
and Movies as Materials : For the Munro Collection

内田順子

UCHIDA Junko

はじめに

①各資料の概要と研究テーマの設定

②調査・研究の過程

③本プロジェクトの意義と可能性

おわりに

## 【論文要旨】

2005年、英国王立人類学協会による提案を受けて、ニール・ゴードン・マンローが残した写真・文書資料を所蔵する6機関（国立歴史民俗博物館、北海道開拓記念館、下中記念財団、英国王立人類学協会、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、国立スコットランド博物館）による「マンロー関係資料デジタル化プロジェクト」が発足した。これを受けて、日本では、国立歴史民俗博物館が所蔵する資料についての研究を中心とする共同研究「マンローコレクション研究—一館蔵の写真資料を中心に」（2006～2008年度、研究代表：内田順子）、関連資料の調査とデジタル化を中心課題とする科学研究費によるプロジェクト「欧米の人類学映画・写真に見えるアイヌ文化のイメージについての研究」（2006～2008年度、研究代表：内田順子。以下「科研」とする）、さらにデジタル化された資料の高度活用を目的としたプロジェクト人間文化研究機構連携研究（文化資源の高度活用）「アイヌ文化の図像表象に関する比較研究—「夷酋列像図」とマンローコレクションのデジタルコンテンツ化の試み—」（2006～2008年度、研究代表：佐々木史郎。以下「機構連携研究」とする）を立ち上げて、研究を推進した。本稿は、このデジタル化プロジェクトが対象とする資料の概要とテーマ設定を述べ、プロジェクトを始動した当初の状況を整理し、研究対象についてどのような問題が存在していたかについてまとめる。第2に、そうした問題を解決するための調査・研究がどのように行われたのか、その過程を記述し、当初の問題がどの程度解決されたのか述べる。最後に、このプロジェクトによる成果物を活かすための課題について述べる。

【キーワード】 写真、映画、著作権、肖像権、アイヌ